



昨年12月に行われた地域円卓会議

### 里浜とは？

多様な自然環境が存在するかつての「海浜と人々のつながり」を、環境学習や自然体験の場など現代の暮らしに合うように活用している地域のことで、カーミージー周辺の海浜等をいいます。

里浜条例には市民行政来訪者が果たすべき役割などの基本的な考え方が定められており、カーミージー周辺の貴重な自然を次世代に引き継いでいくために、里浜の保全、活用を市民と行政が一緒に取り組むことを宣言する理念条例です。そのため、残された海をどのように活用していくのか、具体的なルールを考えるため、里浜ネットワーク実

行委員会を中心に地域住民や市の職員も含めて円卓会議や市民ワークショップなどを行い、ガイドライン(案)が作成されました。今後、そのガイドライン(案)をもとに里浜の保全、活用に関する関係者間の意見交換および情報共有を図る協議会において、市民らと協働して市のガイドラインを策定していきます。

浦添市ではカーミージー周辺の海を保全、活用するために県内初となる里浜条例「浦添市里浜の保全及び促進に関する条例」が平成30年4月1日に施行されました。

## みんながぞくぞくと海へ。

## 未来につなごう カーミージー

西海岸道路の開通に伴い、海の利用者が増え、環境の変化が懸念されています。そんな中、西海岸のカーミージー海域の貴重な自然をどう守っていくかという課題に向き合い、地域発のルール作りを市民と行政が協働で作っていくという取り組みが注目されています。



①シリンカー(カーミージーにつながる水路)探検 ②アーサ採り ③海の観察会 ④カーミージー ⑤浦添市民里浜フォーラム2007 ⑥市民ワークショップ ⑦海岸の清掃活動 ⑧カーミージー周辺の海岸から見える夕日 ⑨遊ゆう親子カメラ体験 ⑩浜下リビクニック(写真提供:港川自治会)

～カーミージーとは～  
カーミージー(亀瀬)は方言で、岩の形が亀が伏せたような姿に見えることから、「カーミー」が亀、「ジー」が岩礁のことで、地域住民に親しまれてきた場所です。



### 地域の人が親しみ、 守ってきたカーミージー

かつては子どもたちが遊んだり、地域の人がアーサや貝を採ったりするなど生活の中で利用されていたカーミージー周辺の海。戦後は、米軍施設牧港補給地区(キャンプ・キングザー)の建設によりフェンスの向こう側にある「海」の存在を意識する風景はほとんどありませんでした。しかし、そのようなかでもカーミージーは地域の人の生活に息つき、これまでに地域の人が自然を守り、地域の小学生を中心に環境学習の場として親しまれてきました。港川自治会と港川小学校の子どもたちは継続的に里浜活動を行い、「自然を次の世代にも残したい」と伝え続け、臨港道路建設についても、何度も市や関係機関と話し合いを重ねた結果、埋め立てを予定していた部分が一部橋梁化されることになりました。

その生き物たちの変化を毎年調査し、その状況を把握しながらルールづくりを考えていく必要があります。また、海で遊ぶときのルールを守ってもらうためには、適切な情報を常日頃から発信する必要があります。実際に来た人に伝える体制を整えていきたいです」と環境の変化に対応した保全、活用のガイドラインづくりと伝えていくことの大切さを強調します。



里浜ネットワーク実行委員会  
たなべ はるみち  
田邊 治通 さん



地域の人の里浜への思いが形になった橋梁

◀1960年代の下港川  
(カーミージーが見えます)

### 浦添の海を守る

### ガイドライン守る

### 私たちにできること

多様な生き物が生息し、豊かな自然環境を残すカーミージー周辺の海岸。里浜を保全し、海のみえるまち浦添を守りたい。そのためにも、西海岸を訪れる多くの人には自然を愛するもの一人として、貴重な自然環境を残していくことに関心を持ってほしいと思います。

●ごみは持ち帰り、海辺では禁煙しましょう。

●アーサ採りは自分で食べる分だけ、1日1人1回にぎりつぶし大まで

●資源が回復するまで、海藻以外の生き物は採らないようにしましょう。

●カーミージー周辺の海では、周囲の環境と人々に配慮し、焚き火、花火、飲酒、または暴走行為等の迷惑行為は遠慮ください。



▲詳しくはこちらをご覧ください。



浜の小さな生き物たち



写真提供:しかたに自然案内

黄色い宝貝



稚魚を育てるうみ草

サンゴたち

